

涌出品一箇の大事

此の本法を受持するは信の一字なり。元品の無明を対治する利剣は信の一字なり。無疑曰信の釈之を思ふべし云云。（『御義口伝上』新編一七六四頁）

第六十七世御法主日顯上人猊下は、

常樂我淨の四徳について

常徳とは

「時間・空間を超越し、有為転変することのない常住の徳である。」

樂徳とは

生死の苦しみを脱し、いかなることにも患わされることのない安樂の徳である。〔安立行菩薩の徳〕

我徳とは

世間の小我妄執を離れた自由自在の大我の徳である。〔上行菩薩の徳〕

淨徳とは

世間の種々の煩惱や悪業・悪事による穢れをよく浄化する、清浄の命である。〔浄行菩薩の徳〕

御指南あそばされています。

※ 「身の貧しきことをなげくべからず」

— 第二十六世日寛上人『松任治兵衛殿御返事』

かならず、かならず身のまづしきことをなげくべからず。ただ信心のまづしき事をなげくべけれ。『金沢法難を尋ねて』（八四頁）